

メタセコイア

(土屋中学校の樹)

＜学校教育目標＞

～ 夢に向かって ～

第6号

令和7年8月27日発行

さいたま市立土屋中学校

さいたま市西区土屋1766-1

TEL 048-622-4611

✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

『陰徳を積む』

校長 小熊 誠

39日間の「土屋夏の陣」第4幕「夏休み」閉幕しました。心も体も、熱い暑い、記憶に刻まれる第4幕となりました。陸上男子、柔道女子、水泳男女、卓球女子、剣道男女が、県大会で心揺さぶられる戦いを繰り広げてくれました。また、美術部展や、英語弁論大会、「ストップいじめ！子どもサミット」、土屋祭りや指扇祭りでも輝きを放ち、科学部はローバーロボット大会で1位・3位・特別賞と素晴らしい結果も残してくれました。30日には、市長との懇話会にも参加する予定です。そして、吹奏楽部が、県大会での圧倒的な演奏で金賞を受賞し、9月6日(土)山梨県での西関東大会に進み、3年連続全国大会金賞への第一歩を踏みだしました。私も土屋の一員として、できる限り現地向かい、同じ空気の中で、同じ気持ちで、応援に臨みました。痺れました。また、1年～3年まで学校選抜総勢46名で組織された、本年度土屋最強軍団である駅伝チームも始動し、メンバーデザイン(右図)のTシャツも揃え、20回の練習を走り切りました。3年生は、それぞれの進路を見極めるための「話し合い」に家族と真正面から向き合い、挑んだはずです。第4幕を戦い抜いた土屋の生徒たちは、2学期80日間「土屋秋の陣」に向けて、心も体も大きく進化し始めています。

そこで今月は、土屋がさらに進化し、「メガ進化」を遂げるために、必要となる大事な話をします。それは、『陰徳を積む』ということです。この言葉(精神)は、銀行業界の元祖であり、安田財閥の創始者である、安田善次郎さんが、幼いころから父親に叩き込まれた言葉(精神)です。「人に褒められようとして善行を施すのではなく、誰にも知られずとも人のためになることを黙々と行おう」ということです。履物を揃えたり、落ちているゴミを拾ったり、朝近所を掃除したり、そんな当たり前前の行いが自然とできるようになると、必ず「運」が向いてきます。最後の勝負の分かれ目である「運」は自分自身で掴むものなのです。『陰徳を積む』ことにより心が磨かれ、人間力が向上します。すると不思議と周囲から認められ、皆に心から応援される人間に進化します。本年度も西関東大会に進み、全国大会の常連となっている吹奏楽部は、県大会の翌日、部員全員で、学校のトイレ全部を黙々と掃除していました。吹奏楽部にとってこれは、当たり前のことなのかもしれません。しかし、その当たり前のことを、当たり前に行っていたことが、最後に「運」を引き寄せてくれたに違いありません。

それでは、土屋にとっての当たり前、「陰徳」とは何でしょうか？それは、返事やあいさつ、掃除であり、学校教育目標であり、生活目標であり、目指す生徒像であると思います。そして、生徒・教職員・保護者・地域の皆様全員で、その当たり前を徹底し、当たり前のレベルをさらに向上させていくことが、土屋の「メガ進化」へ繋がる第一歩となると確信しています。皆様どうぞよろしくお願いします。

さあ「土屋秋の陣」開幕です。保護者・地域の皆様、さらなる土屋の活躍に御期待ください。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校

